

5章1節2 現代文(小説)「デューク」

授業者：酒井将平 1学期期末 2年生2クラス

本質的な問い	近くに大切な存在を亡くして悲しんでいる人がいた場合、どう接することができるか？ 江國香織（1996）『デューク』「つめたいよるに」新潮文庫,p.11-20		
達成目標	① 登場人物の心情を、情景描写や比喩などから推測することができる。 ② 物語の「ドラマを生み出す仕掛け」を生かして、自分の生活を演出することができる。 ③ 大切な存在を失った人に対して、自分に一番向いている関わり方を想定することができる。		
論点 (深めるために)	死別を「思い出」にすることはできるか？		
実践の振り返り	① これまで読んだ文章と比較することで情景描写、比喩について考えを深めていた。 ② 「ドラマを生み出す仕掛け」というものの見方で物語を見つめはじめていた。 ③ 生活や社会とつなげて文章を読むことに意義を感じながら取り組んでくれていた。		
問いの構造化			
	Ideas	Connections	Extensions
導入展開の問い		②あなたは「少年」が自分の正体をばらしたかどうかを判断する立場にあります。あなたはどちらだと判断しますか？	①辛いこともいつかはよい思い出になると言いますが、大切な存在を失った経験でも、いつかはいい思い出になると思いませんか？
洞察を促す問い	③本文中の2つの「悲しみ」に違いはありますか？	④「少年」は「私」をとても愛していました。それにもかかわらず、「私」を直接元気づけたり、励ましたりしないのはなぜでしょう？	
本質的な問い	⑤「私」の気持ちはどのように変化していきますか？	⑥大切な人を亡くしたとき、悲しみだけでなく、なぜ「怒り」や「自責の念」のようなものが生まれるのでしょうか？	⑦もし近くに、大切な存在を亡くして悲しんでいる人がいたら、あなたならどう接しますか？
生徒の変容 (ICE ルーブリック)			
	Ideas	Connections	Extensions
教科・科目に特有の知識・技能	情景描写や比喩の機能やメリットを説明できる。	情景描写や比喩と登場人物の気持ちや言動を関係づけることができる。	情景描写や比喩を用いることで、相手の心を動かすことができる。
教科・科目に特有の見方・考え方	作品の中に仕掛けられた「ドラマを生み出す仕掛け」を指摘できる。	「ドラマを生み出す仕掛け」について、そのからくりを他の物語や実生活との関係から分析することができる。	「ドラマを生み出す仕掛け」を生かして、自分の生活を演出することができる。
汎用的な能力	超高齢化社会において死別と向き合うことの大切さを認識する。	大切な存在を失った人がどのような気持ちの変化をたどるかを予想することができる。	大切な存在を失った人に対して、自分に一番向いている関わり方を想定することができる。